

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590400051		
法人名	医療法人 社団慈生会		
事業所名	グループホーム華房福栄		
所在地	萩市大字福井下3507番地の1		
自己評価作成日	平成22年4月1日	評価結果市町受理日	平成22年7月1日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年4月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中で、地産地消を取り入れた食事を提供し、入居者一人ひとりの声を大切に、明るく楽しい人生経験豊かなスタッフが、状況に応じて柔軟な対応が出来るように心がけています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三食とも事業所で調理され、管理栄養士が利用者の好みに配慮した献立を作成され、職員と一緒に調理にも関わっておられます。敷地内で採れた山菜、畑やプランターで作った野菜などもとりいれて、季節感のある食材やカロリー・栄養バランスのとれた食事、腎臓食などの特別食を提供しておられます。職員と利用者との間に心む関係があり、職員間のチームワークも良くとれており、家庭的な雰囲気での人らしい暮らしができるように一人ひとりのペースを大切に支援され、利用者は穏やかに過ごしておられます。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の玄関、事務所に理念を掲示し、又、個々の名札の裏に理念を入れ、常に事業所の理念を理解し、ミーティングの場で共有している	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、玄関や事務所に掲示し、名札の裏に理念を入れて意識し、朝夕の申し送り時に、利用者の様子や行動から理念の実践に向けて話し合い、理念を共有している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初は、見学等で地域の方々との交流も多少あったが、現在はあまり交流はない 運営推進会議等で地域活動等の情報収集に努めている	地域のイベント情報を把握し、近隣の道の駅のイベントに出かけたり、太鼓の実演後にたたかしてもらったり、市の七夕祭りに利用者の作品を展示して見学に行くなど、地域の人と交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設して一年足らずで地域の方々との交流もあまりないため、現在は実施されていない		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、全職員がミーティングで話し合い、管理者、計画作成者がまとめ、全職員が共有している	評価の意義を理解しており、管理者は自己評価書を全職員に配布し、職員が記入後に集約して計画作成者と一緒にまとめ、職員会議で話し合っ作成している。評価することで課題に気づき、地域とのつながりを深めるなどの改善に取り組んでいる。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2月より開催し、現在1回の実施となっている 行政、民生委員、家族、職員のメンバーで開催し、状況報告や、意見、要望などを聞き、サービスに反映できるよう取り組んでいる 今後は定期的を開催する予定である	総合事務所健康福祉課職員(むつみ・福栄担当2名)在宅介護支援センター職員(同)民生委員(同)行政推進委員、家族代表2名、利用者代表2名、管理者等のメンバーで1回開催している。利用状況、活動報告などで意見交換をしてサービスの向上に活かしている。	・会議の開催回数の検討
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居時の情報の提供、介護保険課に書類提出、毎月の利用状況の連絡をしている	市の担当者に定期的に利用状況等の連絡や相談をしている。あらゆる機会を捉えて積極的に協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し法人の身体拘束委員会の研修に参加し、全職員で共有している 日中は、玄関、勝手口を施錠することなく、外出を察知した場合は一緒に出掛けたり、さりげなく声掛けをして気を紛らわせるなど行い、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる	マニュアルがあり、法人の研修会に参加したり、復命研修などで全職員が身体拘束の内容や弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は鍵をかけないで見守り、外出を察知したら一緒に散歩をしている。	
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の身体拘束の研修に参加し、全職員が共有している 日頃より、入居者を様子観察し、見過ごされることがないように、又、絶対にあってはならないこととして、職員全員が受け止めケアにあたっている		
9		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は権利擁護を必要とされる入居者がいらっしゃらない為、取り組んでいない 権利擁護に関する制度については、周知を図っていく必要があると思っている		
10		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書に沿って、事業所で出来ること、出来ないことの説明をしている 重度化、看取りについての対応、医療連携体制についての説明も行い、家族の理解、納得に努めている		
11	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や、面会時、運営推進会議などで入居者、家族から意見や要望を聞いている 自由に意見が出せるよう玄関に意見箱も設置し苦情相談窓口、外部機関を明示、苦情相談処理手続きを定めている 現在第三者委員の選任はしていない	家族等の意見が出やすいように様式を作り、意見箱を玄関に設置したり、面会時や電話、運営推進会議などで家族の意見や要望を聞いている。苦情相談窓口や担当者、外部機関を明示し、苦情処理手続きを定めている。	
12	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の職員からの意見や情報を取り入れる為、月1回職員全体会議を開催し、話し合いの場を設けている 入居者と職員との馴染みの関係に配慮し、勤務体制や、異動を華房三施設で調整している	管理者は、毎月、全職員参加の職員会議(2時間)を開催して職員の意見を聞き、日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心がけている。出た意見は話し合っ運営に反映させるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場に出て勤務状態の把握、職員の資格所得に向けた支援等、環境づくりに努めている 健康診断は年2回実施され、健康管理、維持にも配慮されている		
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での定期研修会、事業所での勉強会を開催している 外部研修は、勤務の一環として参加している	外部研修は勤務の一環として参加しており、復命研修後は資料を閲覧できるようにしている。月1回行なわれる法人内部研修に参加したり事業所内で勉強会を実施している。	
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前に挨拶へ行き、情報収集に協力して頂いたが、現在、同業者との交流はしていないが、今後は交流が図れるよう取り組んでいきたい		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が抱えている不安や思いをしっかりと傾聴し、事前に不安を解消する為、施設内の見学をして頂くなどして、信頼関係が築けるように努めている		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている不安や思い、本人と家族の思いの違い等、家族の立場に立って聞き、入居者の状況、サービスの選択を見極めながら、信頼関係が築かれるよう努めている		
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況を把握した上で、必要としている支援を見極め、介護支援専門委員、主治医、地域包括支援センターと連携しながら、サービス機関の利用対応にも努めている		
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な生活環境の中で、出来ることをして頂き、役割を持つことで共に支えあう関係が出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に来所されているため入居者の様子、介護計画、職員の思い等を家族に報告し、家族からの意見や要望が得られるよう、コミュニケーションを図りながら信頼関係の構築に努めている		
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の状況把握や、家族からの情報を聞き取り、馴染みの場所に出掛けたり、知人、友人との面会も気軽に出来るよう支援している	利用者や家族と話し合い、これまで暮らしてきた地域社会の情報を把握し、生まれ故郷に行ったり、墓参り、自宅近くをドライブ、知人や友人の訪問を支援して関係が途切れないように努めている。	
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の共同生活の中で、入居者一人ひとりのレベルや性格を把握し、トラブルがないよう職員が仲を取り持つように努めている		
23		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関連の医療機関に入所された際には、情報を提供し、転院がスムーズに運ぶよう支援しながら、その後も家族との繋がりを大切にしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、入居者の言葉、行動、家族、ケアマネジャーの情報から、思いや、意向の把握に努め、入居者本位に検討し、全体で共有している	アセスメントシートや日々の関わりの中で、利用者の思いや意向を把握し、ケース記録に言葉や行動などを記載して職員間で共有している。把握が困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方、生活環境は、同居家族からの情報は得ているが、時には面会のため来所された知人や、親戚からも情報を得ることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や、食事、睡眠、排泄時間、生活習慣、体調の変化等を、ケース記録、ケア記録に記載することで、全職員が把握するようにしている		
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心とし、各職員が担当制を設け入居者や家族の意見、要望を聞きながら全職員で話し合い、検討し介護計画を作成している 介護計画に基づくモニタリングを毎月1回実施している	利用者の担当職員が主治医の意見や本人・家族の希望などをとりいれた介護計画の原案を作成し、毎月1回開催しているケアカンファレンスに提出して全職員で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。	
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の様子を記録するケア記録と、行動を把握するためのケース記録を記入し、モニタリングに繋げる為2週間おきに計画の評価を行い、入居者の状況を把握し話し合い、3ヶ月毎の介護計画の見直しをしている		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の送迎、理美容院の手続き、思い出の場所等のドライブ、買い物など柔軟な支援をしている		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容院の利用はしているが、他の地域資源との連携は活用できていない		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は、家族の希望がある場合通院介助を行っているが、状況によっては家族の協力も得て適切な医療が受けられるよう支援し家族にも報告している	利用開始時にかかりつけ医の希望を聞いていたが、利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医としており、受診の送迎や付き添いなど適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中、夜間のケア記録、申し送り等で情報や気づきを伝え、看護職員だけではなく介護職員とも検討をし、場合によっては主治医にも相談、入居者に対し適切な対応が行えるよう支援している		
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の医療機関と連携もあり家族は安心されている 入退院時には医療機関、家族、事業所での情報交換や相談にも応じられるよう努めている		
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については入居者や家族等に施設側の方針は説明している そのためにも母体である医療機関とも連携をとり適切な医療が受けられるよう支援している	利用開始時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を利用者や家族に伝えている。重度化した場合は、早い段階から主治医や家族と話し合い、共有して、母体である医療機関と連携して事業所でできる範囲の支援をしている。	
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリはっと・事故報告書を記入し、職員全体で改善策を検討、家族へ報告している 一人ひとりの状況を観察し、事故防止に取り組んでいる	ヒヤリはっと報告書や事故報告書に記入し、法人のリスクマネジメント委員会に報告し、ケア会議で対応策を検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。職員に看護師がいるが、職員全員が応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施にはいたっていない。	・全職員に対する応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策マニュアルがあり、消防署の協力を得て、昨年1回火災・非難訓練を行い、今年3月に引き続き訓練を実施した	年2回火災・避難訓練を実施しており、利用者も参加している。スプリンクラーを設置している。地域の人との協力を得るための働きかけはしていない。	・地域への働きかけ
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人ファイルは事務所内の施錠付き書籍に保管し必要時のみ使用している 入居者への言葉かけや会話は敬語、丁寧語を使うよう心掛けている 法人内の接遇研修・新人研修に参加する等の対応を行っている	法人の接遇研修を受講し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をするように取り組んでいる。記録類は人目につかない事務所に保管し取り扱いに注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で一緒に行動することでコミュニケーションを取りながら信頼関係の構築を図っている 言語障害、難聴者には身振り・手振り、筆談の非言語的コミュニケーションを取り入れているが困難なこともある		
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で個々の思いや考えを尊重し、強制することなく散歩や買い物、ドライブ、行事等の参加への促しにより柔軟な対応をしている		
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	住み慣れた地域での理美容院へいけるよう家族の協力も得ている また、数ヶ月ごとに理美容院に来訪してもらえるよう調整している 季節や気候に応じた身なりやおしゃれができるよう配慮している		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が献立を作成する 施設敷地内で収穫したものや季節感のある食材を使用し五感で楽しめるよう工夫している 職員と一緒に自分の役割としてテーブル拭きやお盆拭き等自発的に行われている	三食とも事業所で調理し、管理栄養士が特別食も提供している。畑の収穫物がある場合等は利用者の希望の献立にしている。利用者はお盆やテーブル拭きなどを職員と一緒にしている。職員も同じテーブルで会話をしながら食事を楽しめるよう支援している。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の病状やその日の体調により食事形態や食事摂取量、飲水量、栄養面を管理栄養士の指導を仰ぎ職員で情報の共有化を図っている 食事、水分摂取量は記録として残している		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時に必ず職員が付き添い、義歯の着脱の言葉かけや磨き残し、残渣物がないよう気をつけている		
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせて、夜間のみオムツ使用かベッドサイドにトイレを設置している また、個々の状態に応じた排泄用品を使用し適宜トイレ誘導の介助や汚染の有無を確認している	排泄チェック表に記録し、排泄パターンを把握して一人ひとりに応じた声かけをしてトイレでの排泄の支援に努めている。夜間は個々の状態によって紙おむつやパットの使用もあるが、昼間は紙おむつは使用していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を把握し、日々の体操や散歩等適度な運動を心掛け、食材の工夫を行い一日の食事・水分摂取のチェックを行う 排便困難な場合は主治医に相談する等の対応をしている		
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個別の入浴を行っており、羞恥心やプライバシー保護に配慮している 3回/1W午後からの入浴であるが希望や必要に応じて柔軟な対応をしている	入浴は隔日ごとに半数の利用者が入浴しており、入浴時間は14時から16時まで可能である。利用者は、20分から30分間ゆっくりと入浴を楽しんでいる。希望すれば毎日入浴できる。職員はバットの交換など声かけを工夫しており、全員が入浴している。	
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や活動状況に合わせて個室かフロアで睡眠や休息ができ、空調設備や加湿器、換気、必要に応じてひざ掛け等使用し快適な安眠、休息ができるようにしている		
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は薬局より届き、一人ひとりファイルに綴じ込み内容確認ができるようにしている 薬は個々に手渡し服薬したかを確認している 服薬変更時は状態を観察し医師とも連携をとっている		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴により趣味、嗜好等個々で折り紙や生け花、歌唱等が行えるよう場面作りを工夫し、日々のレクリエーションはゲーム、手遊び等で楽しめるよう雰囲気作りをしている	慣れ親しんだ本を読んだり、折り紙、生け花、おはじき、トランプ、オセロ、ボール遊び、茶道、お盆拭き、食器拭き、野菜づくり、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、気晴らしができ、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換により、施設周辺の散歩やドライブに出掛けたりすることもある 不穏や興奮状態時には本人の思いを聴き馴染みの場所や住み慣れた地域へ出掛け等の対応をしている	散歩やドライブ(花見や祭り)、施設周辺で草花を摘んだり、職員が山菜を取っている様子を外に出て眺めたり、法人内の隣接施設に花見に出向くなど、外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族と相談し金銭の預かりの合意を得ている 入居者一人ひとりの力や希望に合わせ管理できる入居者には小額の所持をしてもらったり、買い物に行く際は本人が支払えるよう支援している		
52		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの手紙や電話の希望、有する能力に応じて電話の取次ぎやかけ方、手紙文のつづり方等の助言、手助け等の支援を行っている		
53	(23)	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には花、飾り物等で季節感を取り入れ、夏場は天窓を開放し温度調整する等の工夫をしている 玄関、居室、食堂、台所、浴室、トイレが同一線上にあるので利用しやすい空間になっている	共用空間は明るく、玄関の一直線上にあり、職員の動向や調理の様子が眺められ、利用者は大型ソファ(3個)に座ってくつろいでテレビが見られる。季節の花や季節ごとの飾りを置いて、生活感や季節感が感じられるように工夫している。	
54		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間は同一線上ではあるが一人ひとりが思い思いに過ごせるよう、テーブルや椅子、ソファの配置等工夫している		
55	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりの居室には、これまで使いたれた馴染みの物(筆筒、置物、日用品等)を置くような配慮をしている	ベット、テレビ、タンス、整理棚、洋服掛けなど、使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ、エアコンが設置されている。全居室から外の景色が眺められ、家族の写真や利用者の作品を飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの行動、身体機能の変化に配慮し、生活環境・居住環境を工夫しながら安全を確保した自立支援を行っている		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム華房福栄

作成日：平成 22年 6月 28日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2・3	地域との連携を図る。	地域住民に施設の性質を理解していただく。	<ul style="list-style-type: none"> 施設(華房福栄)だより配布 ボランティアの呼びかけ、参加の促しをしていく 地域行事への参加(行事内容を検討しながら) 地域住民が参加しやすいような行事をPRする 	12ヵ月
2	36	防災対策について、同敷地の小規模多機能との合同訓練を行っているが、夜間の対策について、地域との関わりが希薄となっており、現段階において協力を得られるような関係ができていない。	災害、防災対策のマニュアルに基づき、年2回の訓練の実施の際に周辺住民の協力が得られるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 地域(消防団等)への働きかけ(挨拶回り)をする 実施日程表の配布(施設だより)等 参加しやすい環境作り(人間関係の構築) 施設、地域に向けてのマニュアル作成 	12ヵ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。